

2010年5月13日

ビール酒造組合御中
日本洋酒酒造組合 御中
日本蒸留酒酒造組合 御中
日本酒造組合中央会 御中
日本ワイナリー協会 御中

特定非営利活動法人ASK（アルコール薬物問題全国市民協会）

代表 今成知美

〒103-0007 中央区日本橋浜町 3-16-7-7F

Tel 03-3249-2551 Fax 03-3249-2553

主婦連合会

会長 山根香織

〒102-0085 千代田区六番町 15 主婦会館プラザエフ 3F

Tel 03-3265-8121 Fax 03-3221-7864

アルコール分0%の酒類風味飲料の妊産婦向けキャンペーンに関する要望書

キリンフリーに関して、キリンビール株式会社に以下の抗議をしました。

1) テレビCM

乳児や幼児を連れた若い母親、大きなお腹の妊婦が、公園に大勢集まってキリンフリーを飲む……「日本のお母さんをフリーに」というテレビCM。

2) 産院での無償配布キャンペーン

産院で出産した女性1万人に無料で配布するキャンペーン。「母の日」にちなみ、首都圏や京阪神地区の約80カ所の産科医院で、退院時に1人1缶を渡すというもの。

キリンビール株式会社からはすでに、1)は打ち切り、2)は中止というご回答をいただいております。同社によると、この商品はそもそも飲酒運転防止を目的として開発されており、妊産婦に勧めることはまったく意図していなかった。しかし発売後に妊産婦からの問い合わせが相次ぎ、マタニティ雑誌・育児雑誌などからの取材も続いたため、社会的ニーズを感じ、今回の応援キャンペーンに踏み切った。ただし、もしクレームがあった場合は撤退するという申し合わせがしてあったとのこと。

アルコール分0%のビール風味飲料は、他のビール3社も発売されています。また今後、別の商品が登場する可能性も大いにあります。そこで、酒類業界全体に了解していただく必要があると考えました。

今回の抗議の趣旨をご理解の上、貴組合から加盟会社に対し、アルコール分0%の酒類風味飲料の妊産婦向けキャンペーンはしない方針をご確認いただきたく、書面にて要望します。

【抗議の趣旨】

アルコール分 0.00%のビール風味飲料は、ふつうの清涼飲料ではなく、ビールを模したアルコール代替飲料です。アルコールは入っていないのにも関わらず、味や喉ごしや雰囲気がつっくりで、「飲酒した気分が味わえる」という大きな特徴があります。そこに危険があるのです。

- 1) アルコール代替飲料を勧めなくても、妊産婦にとって、胎児の発育や母乳の出・成分をよくするためによい自然な食品はいくらでもあります。通常は、吐き気を催しやすい妊婦が、あえてビール味のものを好むとはとても思えません。アルコール代替飲料が、胎児の発育や母乳の出・成分をよくすることに貢献するとも思えません。それにもかかわらず妊産婦から多くの問い合わせがあるとしたら、それは不自然なことであって、若い女性の酒飲みが増加しているという危険な事態を表わしています。酒類メーカーが取り組まなければいけないのはそちらの問題のほうです。
- 2) 妊娠・授乳期に、わざわざアルコール代替飲料を飲みたいという人は、常習化した飲酒習慣をもつ人、つまりアルコールに対して精神依存がある状態だと推測されます。生命を育む妊娠・出産という転機は、このような飲酒習慣を断ち切るよい機会になります。アルコール依存症の予防という視点からは、むしろしばらくの間、アルコールから完全に切り離された生活をする(がらりと生活習慣を変えること)に、大きな意味があるのです。もしそれにストレスを感じるとしたら、アルコール依存の傾向が強いということで、保健所や専門医療での相談が必要ということになります。この人々にアルコール代替飲料を勧めることは、アルコールへの精神依存を持続させ、早々に元の常習化した飲酒習慣に戻る土壌を与えることになってしまいます。
- 3) 妊娠・授乳期にアルコール代替飲料を飲むよう勧めることは、「時期が過ぎたら、どうぞアルコールのあるライフスタイルに戻ってください」と女性に提唱することにつながります。間接的な「飲酒の勧め」であり、ライフステージを通じて女性たちを飲酒習慣から切り離さないための商品戦略なのかと勘ぐってします。
- 4) 同様の理由から、男女を問わず、「休肝日」にアルコール代替飲料を飲むというアピールも危険をはらみます。休肝日には、「アルコール分」だけでなく、「飲酒した気分」からも自分を切り離れたほうがいいのです。休肝日を必要としている人は、常習化した飲酒習慣をもつ人、つまりアルコールに対して精神依存がある状態だと推測されるためです。身体依存にまで至ったアルコール依存症者が、断酒中にアルコール代替飲料を飲むと、それが呼び水となって再飲酒してしまう例が実際に数多く見られます。アルコール医療や、断酒会・AAなどの自助グループの中では、アルコール代替飲料は生命にかかわる「危険な飲料」とされている事実を認識してください。

未成年者に関しては、アルコール代替飲料は飲酒への導入になってしまうという危険性は、各社ともすでに認識されていると思います。大人にとっても、アルコール分0%＝安全ではないということ、この機会に認識していただきたいと思います。

以上

＜参考資料＞ASKに届いた女性たちの意見

●40代・女性・ソーシャルワーカー・大学講師

ノンアルコールビールを産科で配るというキャンペーンに驚きました。

女性が子を宿したことをきっかけに、自分の生活習慣を見直し、命をはぐくむための準備をする重要な時に、必要とする情報は何か。ノンアルコールビールの無料配布を受け入れる産科の姿勢も問われるかと思います。

アルコールの怖さは、身体依存だけではなく、精神依存の形成を見逃すわけにはいきません。妊娠を契機に、常習化した飲酒行動を断ち切るいい機会になる人にとって、この飲料水が、精神依存を持続させ、出産後、「解禁！」とばかりにおそらく多くの人が飲酒習慣に戻ることは簡単に想像できます。このようなサイクルの延長線上に女性アルコール依存症の発症契機が含まれると考えられます。この飲料がそのサイクルの持続に大きな役割を果たすのではないかということが危惧されます。つまりアルコール0%のキリンフリーは、身体依存形成は薬理的にはないのかもしれませんが、精神依存形成は十分関与するのではないかということに対して、否定できる根拠をキリンさんが説明責任を果たせるのかどうか。

私はソーシャルワーカーとして、アルコール依存症と診断され、壮絶な闘病の結果断酒している方々とかかわりあいを持っています。その方々が、アルコール風味の飲料は「呼び水」の危険性をはらんでおり、それが社会に受け入れられている風潮に憤りを感じると口をそろえておっしゃっています。彼らの体験から、身体依存ができていない場合は「確実な」呼び水になることについて実証があります。身体依存までいってなくても、精神依存がすでにできている場合、ノンアルコールビールを飲むことは「精神依存を温存する役目を果たす」と私は考えます。

産科でキリンフリーを無償で配るキャンペーンは、授乳期が終わったら、どうぞアルコールに戻ってくださいというキャンペーンにしか思えません。

●保健師

キリンフリーの女性向け CM 以来、何が問題なのか…を自分なりにずっと考えておりました。今回「産科で配布」と聞き我慢できなくなりました。怒りに近い心情です。

キリンフリーは、「社会のためになる商品を作りたい」という思いで開発されたと聞きました。でも、妊産婦にアルコールの代替品を勧めて何の役に立つというのですか？

本来であれば、自分のおかれている状況に合わせて、アルコールの摂取をコントロール出来るのが通常健康な状態です。妊娠中、授乳中に飲酒したいというのは、分かっているけれど、自分でのコントロールが難しくなっている状態…つまり依存症予備群に限りなく近い状態だと思うのです。アルコールの依存性薬物としての影響を強く受けている人ということです。このような方は、飲むことが出来る環境になれば、飲酒量が増していきます。それが進行すれば、依存症になっていきます。妊娠・授乳期は、アルコールを飲む習慣から自分を切り離すよい機会です。

それが「苦しい」ということは、身体からSOSが出ているということ。そのような方に必要なのは、代替えの商品ではなく、「相談」です。この機会に、「自分とお酒のほどよい関係」を考えることが必要なのです。アルコール依存症になっていないかのチェックも必要でしょう。このアルコールフリー商品

は、そういった方の相談する機会、考える機会を安易に奪ってしまいます。
「世間のニーズ」を理由になんでもしていいということではありません。

●30代女性

そもそもノンアルコールビールは、ノンアルコールと言ってもビールに似せているわけで、アルコールを彷彿させるイメージがあります。ましてせっかくアルコールを我慢しているビールファンの妊婦にとって、ビールの味がしてアルコールが入っていない飲料は、「ちゃんとしたビールを飲みたい」というアルコールへの渴望を呼び起こしかねません。

アルコールに「アルコール摂取により胎児に影響を与えるリスクがある」と表示し、その有害性を知っているメーカーが、妊娠中の女性に対し、アルコールを彷彿させ渴望を呼び起こす可能性のある飲料を積極的に配ることは、配慮のない無責任な商業主義と言わざるを得ません。

さらに、「妊娠中はノンアルコールビール。授乳が終わったら本物のビールを飲みましょう」と言っているのと同じです！ だったら居酒屋に来た運転手にタダで配るキャンペーンをした方が、よっぽど社会貢献できると思います。

●40代女性

キリンフリーは若い女性が開発したとテレビでやっていました。若くて熱意があるのは良いことです。このような暴走を許す企業姿勢に問題があると思います。

そもそも妊産婦がアルコールに手を出すリスクを減らすのであれば、身近にアルコールがない環境（アルコールを思い出さない環境）がいちばん効果的です。そう考えれば、成分的にはアルコールが0%でもアルコールを彷彿させるノンアルコールビールを積極的に勧めることが、矛盾したアピールであることがわかると思います。

また、産後は心身ともに不安定な時期だし、祝い事やストレスの発散、リラックスに飲酒の習慣を持つ人が多い中、たとえノンアルコールでも、あえて「アルコール度0」とアルコールを強調した商品を勧めることは、そうした習慣を賛美しているのと同じです。授乳中に飲酒が習慣化したらどうするんでしょう？

アルコールという、妊婦に対し警戒が必要な商品を扱っている企業としては配慮が必要で、たとえ妊婦から好評の声があったとしても、積極的にアピールするものではないと思います！

取材への対応にも気を配るべきだし、純粋に子育てを応援するなら、アルコールとはまったく関係なしに、添加物も入っていない、栄養のある自然派ドリンクでも開発してほしいです。若い社員に対し企業スタンスを教育するなど、もっと社会的責任を考えてほしいです。

●40代女性

キリンフリー、産院で妊婦全員に1人1人配るなんて、こともあろうに、いったいなに考えてんでしょう。私は18年前に妊娠出産を経験しました。けっこう飲んでいたほうですが、その間は、アルコールの匂いは気持ち悪かったし、どう考えてみてもビール味のものなど、とても飲みたいとは思えません。今考えると、自然の摂理で体がそうになっていたんだと思います。産後は、母乳が出るようになって、「ビオママ」でしたっけ、そんなのを一生懸命飲んでましたよ！